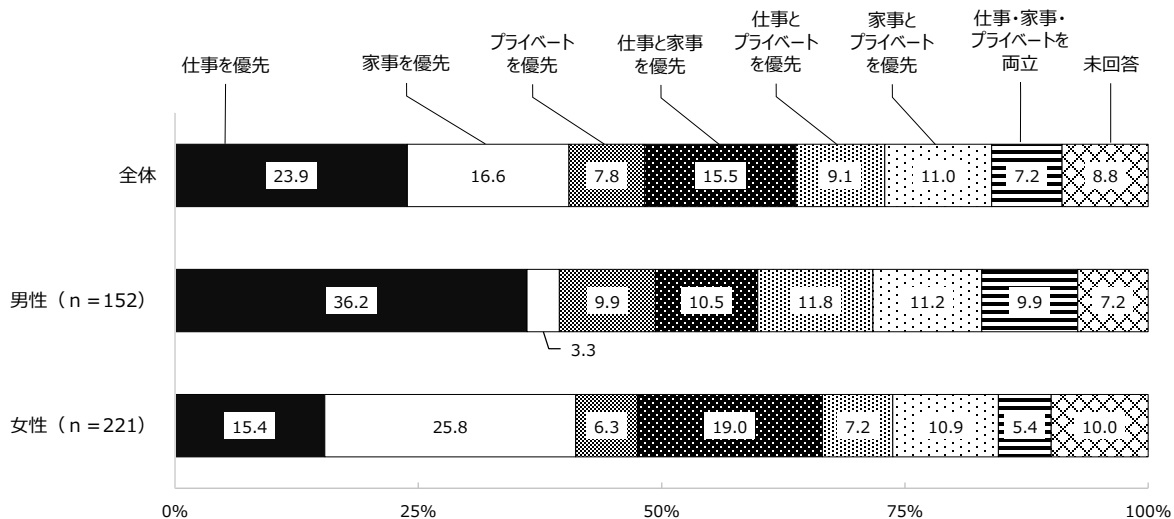


10 ワーク・ライフ・バランスについて

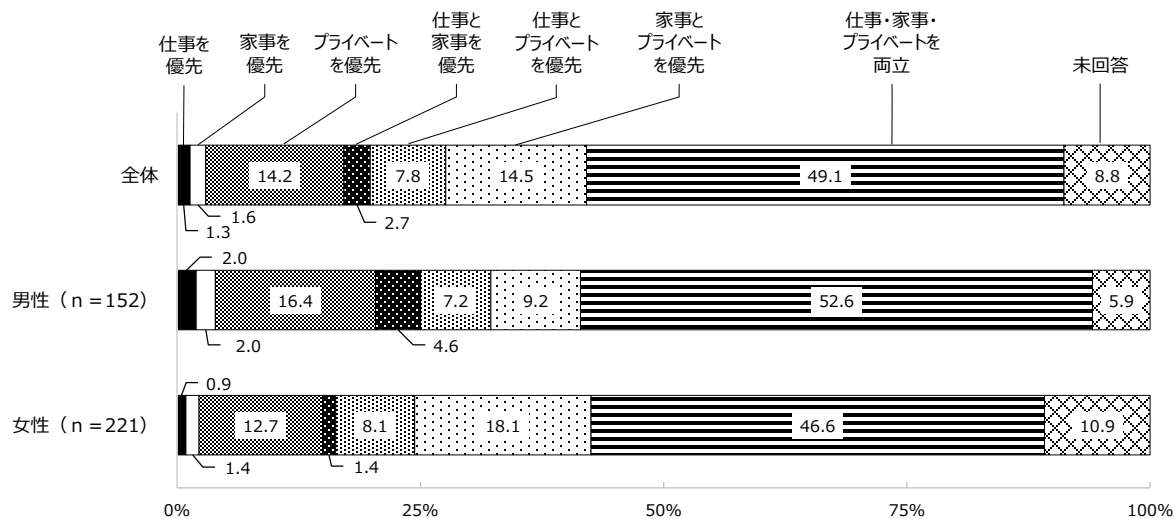
問35 生活の中での、仕事・家事（育児など）・プライベートな時間（趣味など）の優先度についてお聞きします。「a.現状」の優先度と、「b.理想」としての優先度について、あなたの現状やお考えに最も近い番号をそれぞれ1つだけ枠の中に記入してください。
 ※専業主婦（夫）など、仕事に就いていない方は、家事とプライベートの関係についてお答えください。

a. 現状の優先度



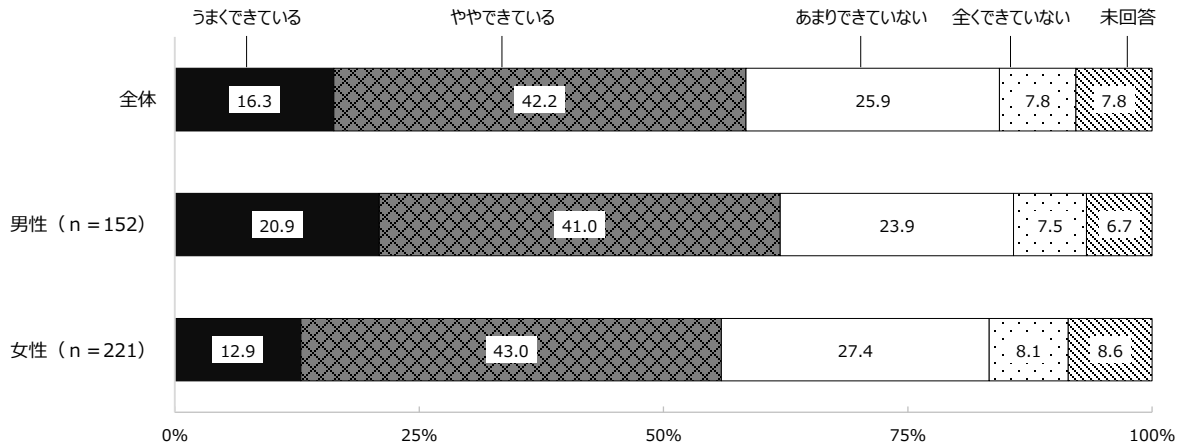
生活の中で、仕事・家事・プライベートな時間などの優先度の現状について聞いたところ、男性は「仕事を優先」（36.2%）、女性は「家事を優先」（25.8%）が多くなっている。

b. 理想の優先度



生活の中で、仕事・家事・プライベートな時間などの優先度の理想について聞いたところ、男女ともに「仕事・家事・プライベートを両立」が最も高かった。次いで、男性は「プライベートな時間を優先」（16.4%）、女性は「家事とプライベートを優先」（18.1%）となっている。

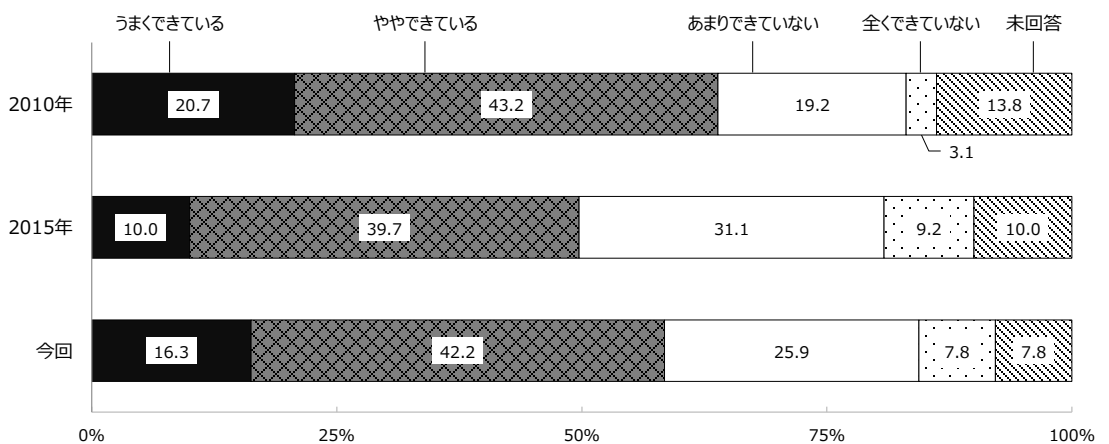
問36 あなたはワーク・ライフ・バランスを実現できていますか。当てはまる番号を枠の中に記入してください。



WLBの実現度について聞いたところ、全体の58.5%が「うまくできている」「ややできている」と回答した。

性別で見ると、「うまくできている」「ややできている」は女性（55.9%）が男性（61.9%）より、6.0ポイント低くなっている。

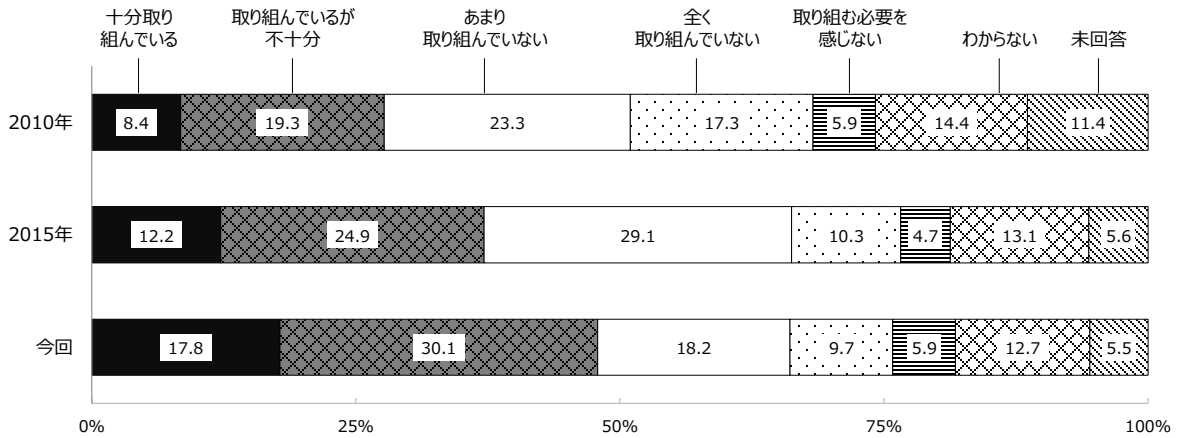
▶過去の調査との比較



これまでの調査と比較したところ、「うまくできている」「ややできている」は2015年（49.7%）より8.8ポイント高くなり、58.5%となっている。「あまりできていない」「全くできていない」は2015年（40.3%）より6.6ポイント低くなり、33.7%となっている。

問37 職業に就いている方にお聞きします。あなたの職場でのワーク・ライフ・バランスの取組について、あなたはどのように認識していますか。現状及び今後の必要性について、次の中から、最も近い番号を1つだけ枠の中に記入してください。

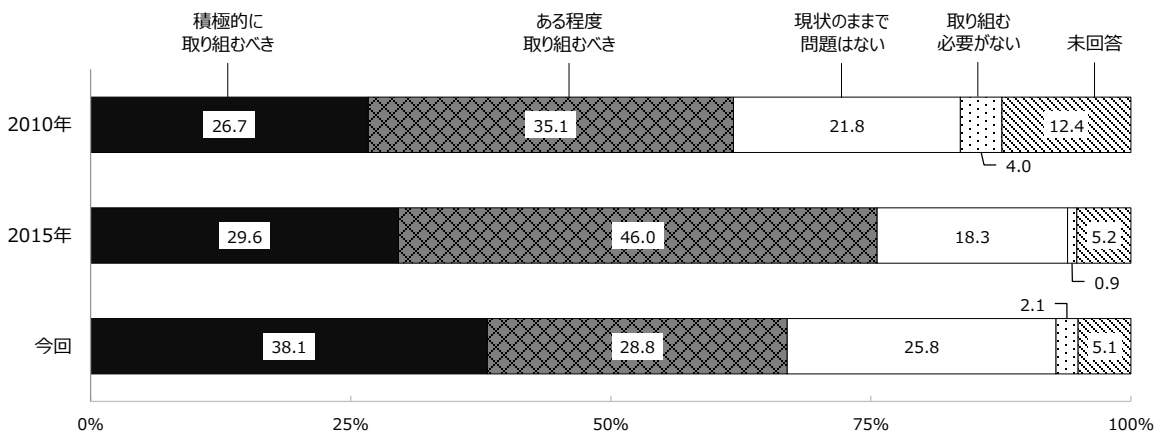
a. 現状



職場におけるWLBの取組の現状についてどのように認識しているか聞いたところ、「十分取り組んでいる」が17.8%、「取り組んでいるが不十分」「あまり取り組んでいない」「全く取り組んでいない」が58.0%となっている。

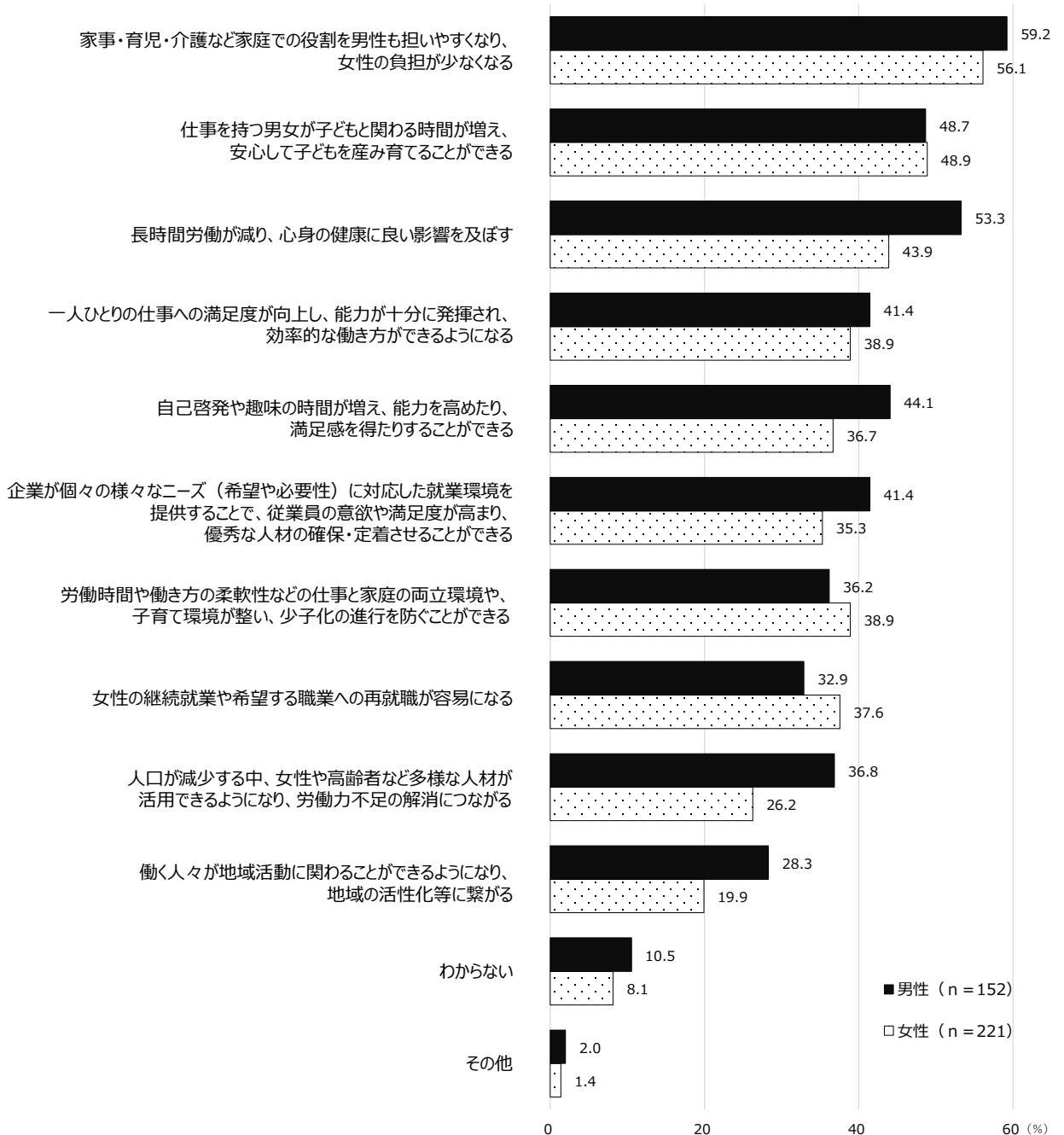
過去の回答と比較したところ、「十分取り組んでいる」は経年増加しており、前回より5.6ポイント高くなっている。

b. 今後の必要性



今後の必要性について聞いたところ、「積極的に取り組むべき」「ある程度取り組むべき」は66.9%となっており、前回より8.7ポイント低くなっている。

問38 あなたがワーク・ライフ・バランスを推進していくことで、プラス効果であると思うものについてお聞きします。次の中から、当てはまる番号をいくつでも枠の中に記入してください。



WLBを推進していくことで、プラス効果であると思うものについて聞いたところ、「家事・育児・介護など家庭での役割を男性も担いやすくなり、女性の負担が少なくなる」(57.4%)、「仕事を持つ男女が子どもと関わる時間が増え、安心して子どもを産み育てることができる」(48.8%)、「長時間労働が減り、心身の健康に良い影響を及ぼす」(47.7%)が全体の上位になっている。

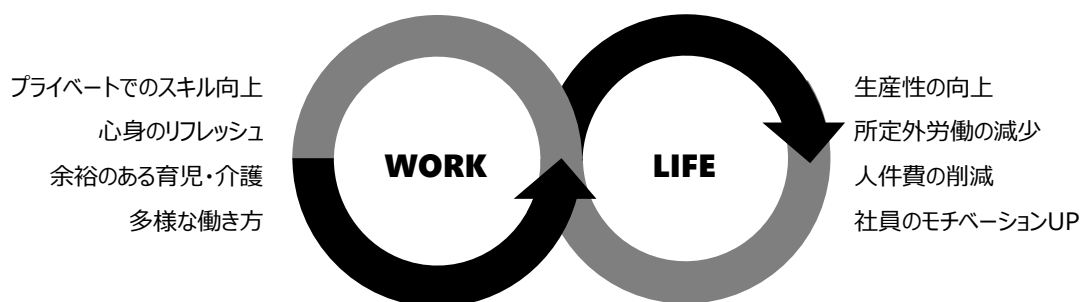
性別で見ると、男性は「家事・育児・介護など家庭での役割を男性も担いやすくなり、女性の負担が少なくなる」(59.2%)、「長時間労働が減り、心身に良い影響を及ぼす」(53.3%)、「仕事を持つ男女が子どもと関わる時間が増え、安心して子どもを産み育てることができる」(48.7%)となっている。

女性は、全体と同様の順であった。

ワーク・ライフ・バランス (WLB)

WLBとは「生活の充実によって、仕事の効率・パフォーマンスが向上し、短時間で仕事の成果を出せる・プライベートに時間を使えるという好循環のこと」をいいます。

仕事は、暮らしを支え、生きがいや喜びをもたらすものですが、同時に、家事・育児・近隣との付き合いなどの生活も暮らしに欠かすことのできないものであり、その充実があつてこそ、人生の生きがい、喜びは倍増します。しかしながら、現実の社会には、安定した仕事に就けず、経済的に自立することができない、仕事に追われ、心身の疲労から健康を害しかねない仕事と子育て・老親の介護との両立に悩むなど、仕事と生活の間で問題を抱える人が多くみられます。これらが、働く人々の将来への不安や豊かさが実感できない大きな要因となっており、社会の活力の低下や少子化・人口減少という現象まで繋がっているといえます。それらを解決する取組が、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現です。



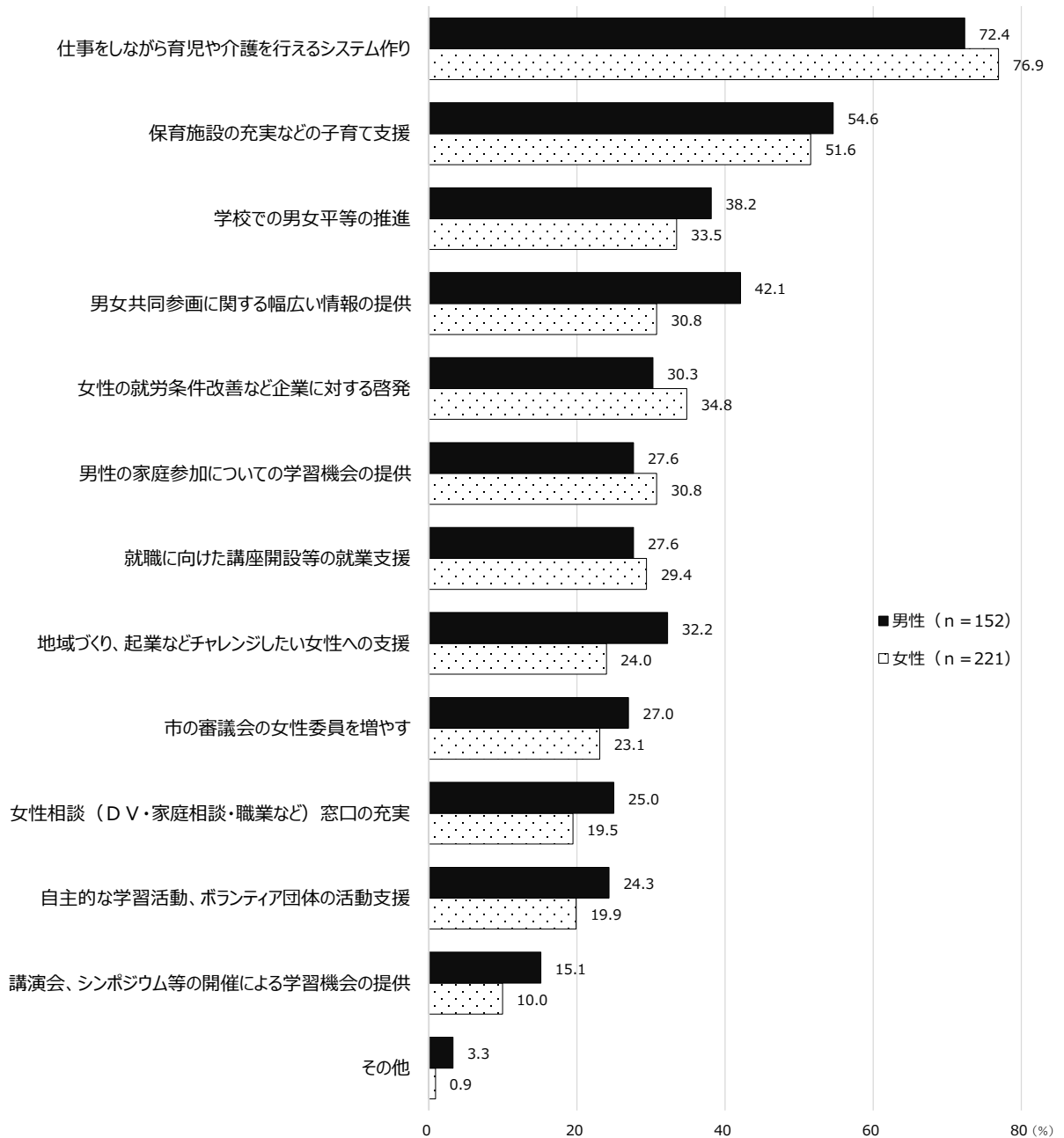
「仕事と生活の調和（ワークライフバランス）憲章」（平成19年内閣府）では「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」としています。

イクボス

「イクボス」とは職場で共に働く部下・スタッフのWLB（仕事と生活の両立）を考え、部下のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果も出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことが出来る上司（経営者・管理職）です。愛媛県では愛媛版イクボスとして「ひめボス」を推進しています。

11 新居浜市の男女共同参画社会の実現に向けて

問39 あなたは、新居浜市が男女共同参画社会の実現を目指して、どのような施策を進めるべきだと思いますか。当てはまる番号をいくつでも枠の中に記入してください。



男女共同参画社会の実現を目指して、どのような施策を進めるべきだと思うか聞いたところ、男女ともに「仕事をしながら育児や介護を行えるシステム作り」（全体75.1%）、「保育施設の充実などの子育て支援」（全体52.8%）が多くなっている。

男性は「男女共同参画に関する幅広い情報の提供」（42.1%）、「学校での男女平等の推進」（38.2%）、「地域づくり、起業などチャレンジした女性への支援」（32.2%）の順で多くなっている。

女性は「女性の就労条件改善など企業に対する啓発」（34.8%）、「学校での男女平等の推進」（33.5%）の順となっている。